

| 科目名 | 26. 生活行動がしづらいからだⅤ 重症心身障害児・者の理解 | | | | |
|---------------|---|--|--------|-------------|---------------|
| 履修年次 | 2年次 | 科目区分 | 専門基礎分野 | 単位数 (時間) | 1単位 (30時間) |
| ディプロマポリシー(DP) | <input type="checkbox"/> 人を大切にするところ <input checked="" type="checkbox"/> 現象を適切に把握し地域で生活する人を支える看護実践力 <input type="checkbox"/> チームの中で連携・協働するための力 <input type="checkbox"/> 専門職業人として自己研鑽する力 | | | | |
| 科目目標 | 重度・重複障害によるからだの反応と治療過程を理解することができる。また、それらが生活行動に及ぼす影響を理解することができる | | | | |
| 到達目標 | 人のからだに関心をもちながら、重度・重複障害によるからだの反応とそれを整えるための方法について説明でき、生活行動への影響について表現することができる | | | | |
| 回 | 学習項目 | 学習内容 | | | 授業方法 |
| 1 | ① 障害の概念 | 重症心身障害とは 障害者基本法・WHOにより障害の理解 重症心身障害を取り巻く社会(概念・定義)の変遷 重症心身障害医療・福祉の変遷 人権への理解と配慮 | | | 講義 |
| 2 | ② 重症心身障害の理解 | 大島の分類・横地分類 超重症児、準超重症児、動く重症心身障害児、医療的ケア児 | | | 講義 |
| 3 | ③ 療育の実際 | 健康管理 リハビリテーション 教育 発達支援 | | | 講義 |
| 4 | ① 障害をひきおこす誘因① | 脳性麻痺、てんかん、知的障害、行動障害を引き起こす誘因・診断 | | | 講義 |
| 5 | ② 障害をひきおこす誘因② | 染色体異常の病態生理・診断と検査・治療 | | | 講義 |
| 6 | ③ 障害をひきおこす誘因の治療 | 薬物療法を中心とした全身管理 | | | 講義 |
| 7 | ④ 重症心身障害の特徴と周辺疾患① | 骨格：骨折、変形拘縮が及ぼす影響と対応 | | | 講義 |
| 8 | ① 重症心身障害の特徴と周辺疾患② | 体温：体温調節障害 睡眠：睡眠障害 皮膚：褥瘡 | | | 講義 |

| | | | | |
|----|---|-----------|--|----|
| 9 | ② | 障害に伴う合併症① | 呼吸：気道の通過障害、低酸素症、高炭酸ガス血症の病態生理・ 診断と検査・治療 | 講義 |
| 10 | ③ | 障害に伴う合併症② | 呼吸を整えるための療法 | 講義 |
| 11 | ① | 障害に伴う合併症③ | 消化管：便性の異常、嘔吐、胃食道逆流症、イレウスの病態生理・ 診断と検査・治療 泌尿器：神経因性膀胱、尿路感染病態生理・診断と検査・治療 | 講義 |
| 12 | ② | 障害に伴う合併症④ | 摂食：摂食機能の評価と食物形態、摂食指導 嚥下：嚥下障害の評価と対応、経管栄養法 | 講義 |
| 13 | ③ | 障害に伴う合併症⑤ | 栄養：栄養状態の評価、栄養所要量の算定の考え方、微量元素欠 乏などの栄養障害、栄養障害への対応 | 講義 |
| 14 | ④ | 障害に伴う合併症⑥ | 歯・口腔：主な口腔病変、誤嚥性肺炎の予防と口腔ケア | 講義 |
| 15 | ⑤ | 障害に伴う合併症⑦ | 感覚：感覚入力とその障害 行動：行動障害の捉え方と対応 | 講義 |